

# 戦争と平和

選挙戦の争点として取り上げたい問題について、主要7党の候補者を対象に分析した。

自民党候補の多くが取り上げたいと答えた争点は景気・雇用対策や農業問題といった以前からの経済政策である一方、社民党や共産党の候補は消費税や憲法改正を取り上げたいと答えていることが分かる。

立憲民主、国民民主両党は、候補によって取り上げたい争点がばらつき、はっきりとした傾向がみられない。日本維新の会の候補は財政再建や行

## 回答分析

# 改憲 公明やや消極的

久米郁男

早大教授

荒井紀一郎

首都大学東京教授

政改革、教育無償化を主要争点として取り上げたいと考えている。

質問に対する回答をもとにして、各候補の政策的な立ち位置を明らかにするために「因子分析」という統計手法を用いて、五つの対立軸を抽出した。

図のように、憲法の9条や統治機構に関する条項の改正、防衛費増を志向するかど

うかの軸では、憲法改正や防衛費増で自民と維新に前向きな候補が多い一方で、共産、社民の候補の多くが反対している。公明の候補は自民よりも立民や国民の候補の近くに位置しており、どちらかといえば改正には消極的だ。

中国、ロシア、韓国との関係を強化すべきだと考えるかどうかの軸を見ると、維新の候補がいわゆる「タカ派」で、これらの国々と距離を置くべきだと考えている人が多い。共産、社民の候補の多くは関係を改善すべきだと考えている。自公と立民、国民の候補に大きな違いはない。立民と国民の候補には民主党時代

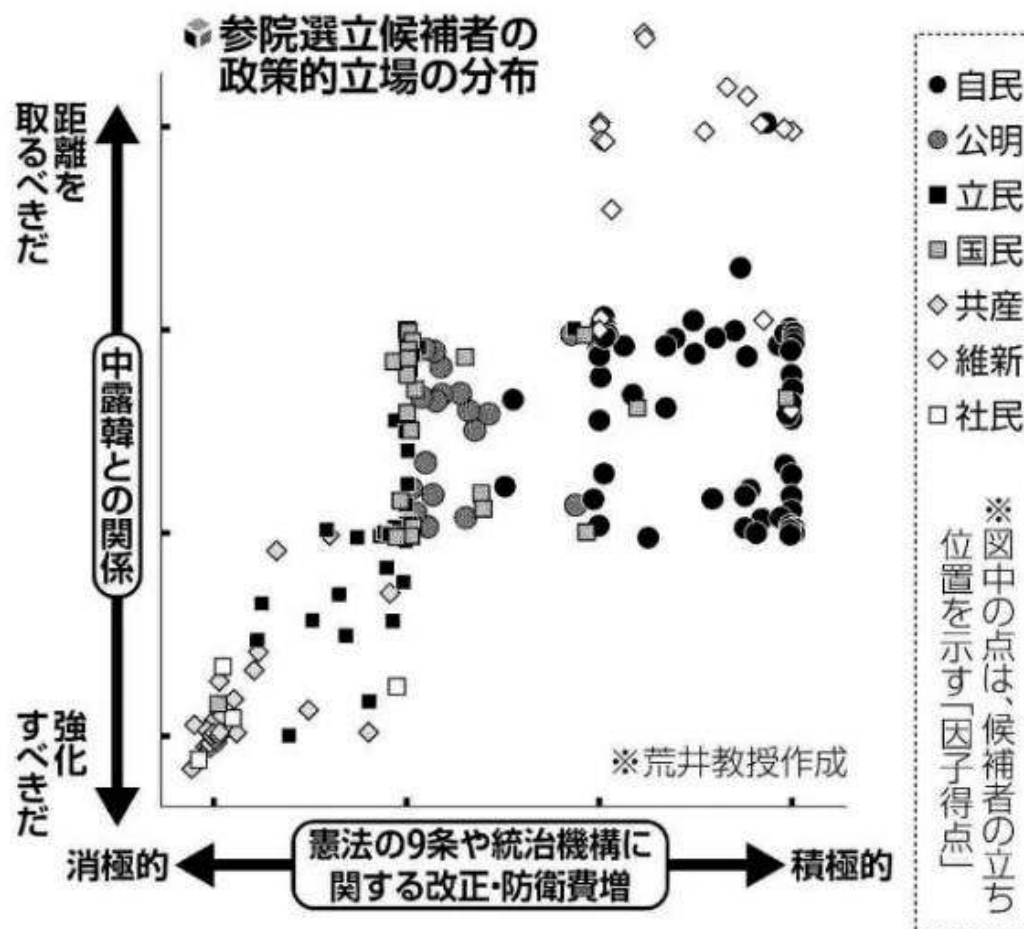
政権を担った経験のある人がいるため、現実的になっている可能性がある。

憲法でも、環境権やプライバシーといった人権に関する条項の改正では、所属政党による大きな違いはみられなかった。経済に関しては、憲法や外交に比べると所属政党ごとのまとまりは弱い。自民、立民、維新が「小さな政府」、共産、社民、公明が「大きな政府」を志向するという傾向が見受けられる。

「消費税増税を予定通り実施すべきだ」と答えた候補は、「公共事業費を増やすべきだ」と答えることが多いという傾向もみられた。



# 2019 参院選



# 試験

- 7月24日 1限
- 入門01 再履修者(旧制度) 15-301
- 入門02 15-302
- 持ち込み A4用紙一枚
- 論述2問 + 1
- 論述60点、平常点20点、小テスト20点
- 論述90点、平常点20点、小テスト0点

# メニュー

- 戦争と平和の定義
- 交渉理論と戦争
- 民主的平和論
- 政治リーダーと戦争
- 安全保障政策の課題
- 国際システムと戦争

# 平和とは何か

- まずは日常の人間関係で考えよう
- 平和とは何か
  - 戦争の無い状態
  - 冷戦と熱戦
  - 人間の安全保障＝人として幸福に生きられる状態
  - スティーブン・ピンカー『暴力の人類史』
- 国内類推
  - アナーキーとしての国際関係
  - 国際秩序と予測可能性の有無

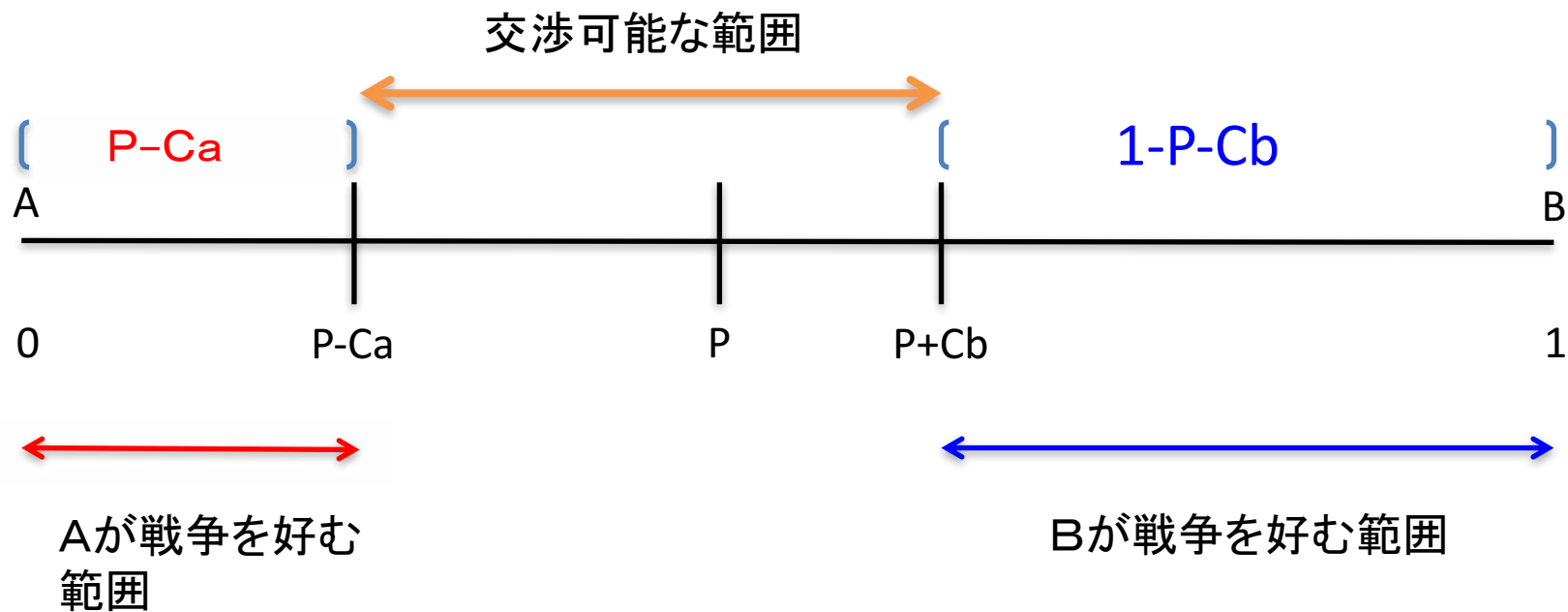
# 外交の失敗としての戦争

- 政治学における理解
- 平和的な国際関係の国家間調整のあり方である外交の失敗
- カール・フォン・クラウゼビッツ「戦争とは他の手段をもってする政治の継続である」(戦争論)



# 戦争を引き起こすミクロなメカニズム

- 交渉理論
  - 話し合い交渉によって紛争が解決できないときに戦争が起きる
- 戦争で得たい利益(たとえば 領土)
- 戦争に勝つ確率
- 期待利得
- 戦争にかかる費用
- 戦争の損得計算



$P$ はAが戦争に勝つ確率  
 $1-P$ がBが勝つ確率  
 領土は1の大きさ



Aの期待利得  
 Bの期待利得

$P$   
 $1-P$



A  $P-Ca$   
 B  $1-P-Cb$

# 戦争に至るケース

- 戦争の「非合理性」とパズル
- Pをお互いが知っており、Cが充分に大きいと戦争は起こりにくい
- しかし・・・
- 相手の能力や意図を見誤る
  - 自分を過信し、相手を見下す
  - 情報の非対称性とブラフの応酬
- 相手の約束を信用できない
- 譲れない対象物

# 民主的平和論

- 民主主義国同士は戦争をしない
- 民主主義国は情報を秘匿できない
- 情報の非対称性が生まれにくい

	非民主主義国同士	民主主義国同士
戦争にならなかった紛争	2409	132
戦争担った紛争	125	2

1816年～2001年

Bueno de Mesquita, Principles of International Politics 2010

# 政治指導者と戦争

- ビリヤードゲームとしての国際関係
  - 一枚岩の国家=合理的行為者
- 国家内部のアクター
  - 戦争で得する人損する人
  - 民主主義国は戦争をやりにくい
    - 中位投票者は兵士になる
  - 陽動理論=国内の不満を戦争でそらす
  - The rally 'round the flag effect (旗下結集効果)

# 安全保障政策

- 抑止理論
  - 自国の軍事能力を整備し相手国の攻撃を思いとどまらせる
- 自前の軍備拡充
  - 自律性とコストのトレードオフ
- 同盟による集団的自衛
  - 巻き込まれのコスト
  - 見捨てられる心配

# 安全保障のジレンマ

- 抑止政策と軍拡競争
  - 囚人のジレンマ状況
  - 一方的軍縮の問題点
- ジレンマの解消とSecurity Community
  - 信頼醸成と利害の共有
  - アメリカとカナダ国境
  - ヨーロッパ諸国

# 戦争と平和のマクロな説明

- 国際システムの特徴で説明する
  - 国内の状況ではなく国際システムが重要
  - リアリストの視点
- 勢力均衡論
- 二極安定
  - 冷戦期と米ソ相互確証破壊（核兵器）
  - 局地戦争の存在
- 覇権安定理論
  - 秩序を乱す挑戦国を排除できる存在



# 平和への道

- 商業的平和
  - 経済的相互依存と平和
- 国際機構と平和
  - 国連と集団的安全保障
  - 国際の平和と安全に対する脅威への集団的対応
  - 第1次湾岸戦争